

## 【筑波大学附属駒場中学 社会】

地理・歴史・公民（現代社会）の順に大問3題という構成は例年どおりでしたが、地形図の読み取り、図表の分析、「30字程度」の論述、世界地図上の位置を問う問題など、珍しい出題形式が多かったため、戸惑った受験生も多くいたと予想されます。しかしながら、問われていること自体はほとんどが想定されるレベルなので、合格ラインは6割後半から7割程度と予想されます。

### 〔1〕小笠原諸島の返還50年にちなんだ地理分野の問題

- 1 小笠原諸島の島々について（易）
- 2 小笠原諸島で見られる環境の変化について（易）
- 3 小笠原諸島における飛行場建設や高速船就航について（易）
- 4 父島に残る太平洋諸島の文化を調べる方法（易）
- 5 沖縄の地理・歴史について（易）
- 6 日本の世界自然遺産の特色について（易）
- 7 父島の二見港と母島の沖島の特色（地形図の読み取り・易）

※ 問題レベル（中・易など）は、筑駒受験生の一般的なレベルを基準とした難易度です。

ほとんどが基本的な知識や理解を問うものなので、全問正解できた受験生も多くいたようです。3は、本文中の記述をよく読めば、高速艇が就航しても日帰り旅行ができる距離ではないこともつかめるはずです。7では地形図の読み取りが出題されましたが、地図記号が分かれば正解できるものなので、簡単だったと思います。

### 〔2〕日本の総人口の推移をもとにした歴史分野の問題

- 1 リード文中の空所補充（4問・易）
- 2 リード文中の空所補充（図表の読み取り7問・易）
- 3 (1) 各時代の特色（リード文の読み取り＋誤文選択・中）  
(2) 8世紀の推定人口に日本列島の北部と南部が含まれていない理由（30字程度の論述・中）
- 4 (1) 縄文時代の人口重心の位置（リード文をふまえた選択・易）  
(2) 各時代のできごとと人口重心の位置（適文選択・すべて選ぶ・易）

リード文は日本の総人口についての文章で、前半は、1920年以降の国勢調査の結果をもとに5年ごとの増え幅を比較するもの、後半は、縄文時代から明治時代までの推計人口や、各時代の「人口重心」を説明したものでした。筑駒では、過去にも「平城京の人口」や「江戸の人口」などを問う出題があったのでテーマ自体は難しくありませんが、与えられた図表や文章を限られた時間で正確に読み取れたかどうかで差がついています。2は、5年ごとの人口の増え幅を読み取りながら、リード文中の空欄を埋めていく問題ですが、太平洋戦争やベビーブームなどをしっかり理解していればある程度予測して解けるので、そうした「頭の使い方」もカギになったと言えます。3(1)や4(2)も同様で、選択肢とリード文（あるいは図）の照合を的確に処理していく力も試されます。

〔3〕 国際社会が行う紛争地域への人道的介入とその是非をテーマにした公民・現代社会の問題

- 1 世界各地の難民問題について（中）
- 2 日本の政治・経済・外交政策について（中）
- 3 世界各地の内戦・地域紛争について（易）
- 4 人権について（すべて選ぶ・中）
- 5 アメリカ・イギリス・中国・ロシアの政治や民族について（すべて選ぶ・中）
- 6 紛争地域の人々を国際社会が「保護する責任」について（本文の読み取り含む・易）

リード文は「紛争地域で人道的な問題が起こっているときに、その国の同意なしに国際社会が武力で介入して、その国の人々の安全を守るべきか否か」という内容で、それをもとに日本の政治や国際社会についての理解が広く問われています。2では、改正民法成立による成人年齢引き下げや世田谷区の同性パートナーシップ宣誓制度、5では、米朝首脳会談やイギリスのEU離脱など、時事的な事項もふんだんに取り入れた出題でした。4や5が「すべて選びなさい」タイプの問題だったこともふくめて、ここが勝負の分かれ目になったと思われます。